

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

本山町長賞

春惜しむ潮色の濃き土佐に来て

京都府 大石 久美

本山町教育長賞

風が寄せ風に解かるる花筏

愛媛県 中川 令

本山町議会議長賞

大瀨をのぼる光や紋白蝶

広島県 近藤 寛壽

本山町観光協会会長賞

草笛を吹きひびかせよ暮石句碑

高知県 亀井雉子男

本山町商工会会長賞

徹句碑に天道虫の生まれをり

広島県 加藤五十鈴

大原富枝の会長賞

紅石楠花書かねば消えるその言葉

高知県 中内かず子

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

茨木和生選 特選（一点）

草笛を吹きひびかせよ暮石句碑
高知県 亀井雉子男

茨木和生選 入選（十点）

遠く来て暮石生家に春惜しむ	広島県	新本	孝子
田に水の入りたると亀鳴きにけり	兵庫県	高階	和音
蕨干す青味残りてゐたりけり	京都府	山崎	隆代
田を植うる暮石のゐたる日のごとく	京都府	大石	久美
山桜好きで暮石の句が好きで	兵庫県	堀	瞳子
鶯や暮石生家の水の音	奈良県	富田	美子
沖雲を眺むベンチの夕遍路	京都府	秋山	幸子
心地よし土佐のことばも春の日も	徳島県	魚井	遊羽
耕せり暮石生家を下に見て	京都府	浅井	陽子
ひとところ雲の湧きゐる春の山	東京都	田中	久幸

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

宇多喜代子選 特選（一点）

細胞再生櫨の芽は天辺に

広島県

近藤

寛壽

宇多喜代子選 入選（十点）

夏近し苔のにはへる句碑数多

徳島県

佐伯さちこ

松蟬の声聞いてゐる句碑の耳

徳島県

二橋 満璃

葉桜や社に供ふ米と塩

徳島県

中野 貴美

大土佐の緑立つ雨昨夜の雨

徳島県

本城 佐和

御浸しのくろがね色の初わらび

広島県

馬木 芳子

野良猫の欠伸のうつる日永かな

高知県

近藤 勝

八方の根が突きあげて大夏木

高知県

石川 渭水

田に水の入りたると亀鳴きにけり

兵庫県

高階 和音

トンネルをひいふうみいと春の山

徳島県

高田スミ子

山桜好きで暮石の句が好きで

兵庫県

堀 瞳子

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

江崎紀和子 特選（一点）

嶺北の水の明るき雲雀東風

愛媛県 白石 美子

江崎紀和子 入選（十点）

花筏組まんと川の淀みけり

愛媛県 中川 令

露の臺ほうけて風の生ぬるし

愛媛県 久門ヨシエ

雲の間にのぞく青空鯉のぼり

愛媛県 和泉 厚子

山からの水を引き込み種浸し

愛媛県 越智 啓子

初蝶や天地のあはひしめらせて

愛媛県 高橋 淑子

春風駘蕩赤牛ののたりかな

愛媛県 河原 佳子

奥土佐を囃したてをる木の芽かな

愛媛県 渡辺美紀子

雪持草苞あげ婉といふ女

愛媛県 曾我部恵子

山壁のはれわたりゆく蝶の昼

愛媛県 杉山 望

櫟若葉触れんばかりに吉野川

愛媛県 妻鳥 弘子

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

鈴木厚子選 特選（一点）

蛇穴を出づ滑らかにペタル漕ぐ

広島県 近藤 寛壽

鈴木厚子選 入選（十点）

春の闇なめてゆらめく和蠟燭

広島県 武田 弘子

腕まで蠟にまみれて春闌くる

広島県 石井 和子

鶯やぬくみ伝はる徹の句碑

広島県 濱本美智子

たつきみな赤牛とあり牧ひらく

高知県 近藤 勝

雨匂ふ折りながらむく露の皮

愛媛県 和泉 厚子

暮石家や薇ほのと朱に縮み

広島県 清岡 早苗

遠く来て暮石生家に春惜しむ

広島県 新本 孝子

内子座の花道を踏み春惜しむ

広島県 堀向 博子

囀や内子座の木の滑車禿び

広島県 松本 恵和

ぜんまいの湯気も均して干しにけり

京都府 浅井 陽子

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

船越淑子選 特選（一点）

月琴の音色ゆたかに若葉風

徳島県 山口 晴子

船越淑子選 入選（十点）

待ち来れし梅子師の影花は葉に

徳島県 二宮 弘子

幕引きは梅子先生雉子鳴く

徳島県 二橋 満璃

惜春の早明浦ダムや句碑の町

京都府 室 達朗

暮石てふも最初の最後山笑ふ

徳島県 杉本 棟子

俳句の道辿りて春を惜しみけり

愛媛県 井門 忠士

大賞の友に拍手をシクラメン

徳島県 幸田 清子

春惜しむ暮石の里や雨上る

徳島県 住友セツ子

句碑称へ四半世紀よ春はやて

徳島県 原田 厚子

嶺北は維新の拠点風光る

徳島県 大塚紀久子

新緑や文学館のリニユール

徳島県 西村 富子

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

松林朝蒼選 特選（一点）

散歩圏に新しき墓河鹿鳴く

奈良県 鈴木 玲子

松林朝蒼選 入選（十点）

昭和疾遠ざかりけり飛花落花

広島県 福田美智子

櫛の芽や暮石富枝の母郷なる

徳島県 阿部 久

桐の花けふに心をのこしつつ

愛媛県 黒川 紀子

遠ざかる海鳥の声月朧

広島県 堀向 博子

暮石師の散歩圏かな蛙鳴く

奈良県 辻 佐和子

莖立ちや土佐街道のなぞへ畑

徳島県 瀬部 康子

暮石生家けふもきぎすの啼きつらん

徳島県 原田 厚子

薇干す雨の止みたる門口に

大阪府 佐藤 絃子

和生句碑地獄の釜の蓋の花

大阪府 山口 哲夫

囀や内子座の木の滑車禿び

広島県 松本 恵和

第二十五回右城暮石顕彰全国俳句大会 当日句

味元昭次選 特選（一点）

雪持草苞あげ婉といふ女

愛媛県 曾我部恵子

味元昭次選 入選（十点）

陽炎の中のわたくし縄電車

高知県 山本 敏子

昔日をたぐりし水路余花の空

愛媛県 白石 美子

朝市や土佐の湿りの独活を買ふ

広島県 迫 美代子

桐の花けふに心をのこしつつ

愛媛県 黒川 紀子

土佐の子の返事弾みて柿若葉

奈良県 辻 佐和子

暮石句碑桜蕊降るただ中に

徳島県 原田 厚子

柿若葉こゑやはらかに歩みけり

神奈川県 たなか游

字古田小字暮石春惜しむ

兵庫県 堀 瞳子

春泥のうろこ乾きに牛の尻

千葉県 小林 眸

そそりたつ虎杖太き土佐の国

愛媛県 渡辺美紀子